

特集1

今治市
岡山保育園

移住者と移住を受け入れる地域の人びとの架け橋になる ―移住体験施設クルツラントウレーベン大三島―

今治市 大三島支所 産業建設課長 小池 昭仁



クルツラントウレーベンの島、大三島

ここ大三島は、東西に長い瀬戸内海のほぼ中央に位置し、九州と近畿を結ぶ海路の中間点として古くから栄えてきた地域です。島の中心には、国の安寧を司る神を祀った大山祇神社があります。この神は海上交通の安全を守る神で、戦に勝利をもたらす神でもあり、山の神でもあります。

また、大三島は、観光地として、パワースポットとして、あるいはサイクリストの聖地として

全国から訪れる人々で賑わっています。最近では、本州尾道市からの「しまなみ海道」と本州呉市からの「とびしま海道」、そして今治



クルツラントウレーベン全景

市からの「しまなみ海道」が交わる中心の島となっています。

大三島においては、平成15年4月から全国に先駆けてラントウレーベン大三島が、滞在型農園施設として運営を開始したこともあり、移住の候補地として、かなり人気のある地域になっています。

クルツラントウレーベン開設の背景

都市住民を中心に、自然とのふれ合いや癒しによる安らぎを求める生活志向が高まり、緑豊かな農村地域への移住に関心が寄せられています。大三島町においても、少子高齢化が著しく、遊休農地や耕作放棄地が増加していることから、農地の有効活用を図るとともに都市住民との移住交流を促進する施設としてラントウレーベンの滞在型農園施設は、大三島において大変重要な施設となっています。

全国的な移住への関心の高まりに伴い、多くの人びとがラントウレーベン大三島を利用し、移住促進につながりましたが、新たな課題も浮かび上がりました。ラン

トウレーベン大三島の入居施設は、全部で16棟あり、一旦入居すると最長5年の滞在が可能であるため、なかなか空きが出ないこと。空きが出ても申込者が多く、数戸の募集に対して、数十倍の競争率という状況で、入居枠は非常に狭き門であったのです。



芋ほり体験

これらの問題を解決するために、滞在型農園施設（最長5年間滞在可）ラントウレーベン大三島に対して、短期滞在型の移住体験施設（最長2週間滞在可）クルツラントウレーベン大三島を開設し、ラントウレーベン大三島とともに、多くの移住希望者の要望に応える体制を拡充し、移住促進を図ることになったのです。

クルツラントウレーベン建設への取り組み

このクルツラントウレーベンのある場所では最初、岡山小学校という小学校でした。この岡山小学校が、昭和60年に閉校となった後、木造校舎を取り壊し、岡山保育園が建設されました。更に、その保育園も平成23年3月に閉園となりました。

この保育園跡地を、クルツラントウレーベン大三島として活用することを提案したのは、野々江地区の住民で構成されたラントウレーベン大三島の管理組合でした。ラントウレーベン大三島を運営する中で出てきた問題点や移住希望者の要望を検証して、クルツラントウレーベン大三島の建設が決定したのです。国や県の交付金や補助金を一部活用し、平成24年に今治市が改修を実施しました。

床面積約375平方メートルで、ふろ・トイレ付き14〜20畳の宿泊室3室と調理場、研修室（40畳）を整備しました。施設名は、クルツラントウレーベン、ドイツ



クルツラントウレーベンの宿泊室

語で「短い田舎暮らし」の意味で、宿泊（素泊まり）は最長2週間まで、利用料は初日3000円（小学生以下2000円）2日目以降は1日2000円（小学生以下1000円）で、原則7日前までの事前申込制です。

クルツラントウレーベンの目指すもの

こうしてクルツラントウレーベンは、大三島への移住を希望する人達に大三島での暮らしを体験してもらうための宿泊施設として、旧保育園を再利用する形で誕生しました。

島に住民と協力して多数の体験メニューを用意し、いろいろな角度から島の魅力を感じてもらっています。

クルツラントウレーベン大三島で、大三島の生活体験をすることで、少しでも大三島を理解してもらいたいと考えています。考え方も違えば、育った環境も違う人々が、大三島に移住したいとやってきます。移住を受け入れる地域の人々と、移住者には生活習慣や考え方において大きな差があります。それらを一度に埋めることは不可能ですが、お互いの立場や考え方を理解することが大切であると考えています。お互いを尊重しあう関係にならなければなりません。そのために、あらゆる努力を積み上げ、移住を受け入れる地域の人びとと移住者が共に協力して住みやすい大三島になるよう、頑張りたいと思います。

最後に、人と人をつなぐことは大変難しいことだと思いますが、クルツラントウレーベン大三島が、移住希望者と移住を受け入れる地域住民との架け橋になり、移住が促進されて大三島が過疎地域でなくなることを願っています。



広々とした併設農園